

山都町指定文化財 ～新たに、5件の文化財を町指定文化財に指定しました～

文化財とは、「我が国の長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産」です。山都町では、地域に残る文化財のうち特に重要なものを町指定文化財として指定を行っています。今回、平成27年12月25日付けで新たに「山都町指定文化財」に指定した5件の文化財を紹介します。

① 高畑乙ノ原遺跡出土品 【種別】有形文化財（考古資料）

平成16～17年に農道整備事業に伴い発掘調査が行われた遺跡で発見された縄文時代の草創期の土器（爪形文土器）・石器群です。「爪形文土器」は、縄文土器のなかでも特に古く約12,000年前頃のものとして確認でき、県内でも出土事例が少なく貴重です。



② 大川阿蘇神社関係資料 【種別】有形文化財（歴史資料）

大川阿蘇神社に伝わる歴史資料の一括で、棟札など23点。棟札は、嘉吉3年（1443）から安政4年（1857）まで10点が残存しています。貴重な鎌倉・室町時代の歴史資料を含み、かつ一括して中世から近世の神社と地域の歴史を今日まで伝えるものとして重要です。



③ 渡邊家文書 【種別】有形文化財（古文書）

代々、大川阿蘇神社の神職を担う渡邊家に伝わる古文書群、261点。江戸時代から昭和までの史料を有し、神社関係資料と一体として地域の歴史を伝えるものとして重要です。

④ 高畑年祢神社神楽 【種別】無形民俗文化財



高畑年祢神社（高畑阿蘇神社）の夏・秋の例祭などにおいて奉納される神楽（夏：5月3日、秋：9月30日）。江戸時代頃に宮崎県東臼杵郡より伝承されたと伝わっています。笛や太鼓、鐘の囃子は六調子でテンポが速く、鈴や扇子、御幣などの採物や面（おもて）を用いて舞われる神話の岩戸開きを題材とした岩戸神楽です。宮崎との交流のなかで伝えられ、今日まで絶えず継承されてきた伝統芸能の一つとして重要です。

⑤ 高畑年祢神社田植え踊り 【種別】無形民俗文化財



高畑年祢神社（高畑阿蘇神社）の夏の例祭（5月3日）で行われる芸能。昔の田植えの様子を再現した踊りで、神社に祀られる穀物の神様、年祢神（国龍神）に稲の豊穰を祈るためのものです。牛や獅子が登場するほか「コガラ」や「マンガ」などの民具（複製）も使われています。この田植え踊りは、宮崎県より伝えられたと言われ、本町で唯一のもので、神社に残る神楽とともに重要です。

山都町より多くの選手が出場しました！！

第33回熊日郡市対抗女子駅伝／第42回郡市対抗熊日駅伝



1月24日に「第33回熊日郡市対抗女子駅伝」、2月14日に「第42回郡市対抗熊日駅伝」が開催され上益城郡の代表として山都町より多くの選手が出場しました。

女子駅伝では、全国高校駅伝でも活躍した中川京香さん（矢部中出身）と枝尾祐希さん（清和中出身）が出場されました。大会当日は気温が氷点下1.5度と雪が舞う悪条件の中で、3区を枝尾祐希さん、5区を中川京香さんが力走し総合成績は7位でした。また枝尾祐希さんは区間賞と優秀選手賞を受賞されました。

男子駅伝は天草市役所前をスタートし、熊本市のびがれす熊日会館前をゴールとする、全14区間105.4kmの長丁場で争われました。当日は4区を山崎学さん（矢部中出身）11区を一瀬雅人さん（矢部中3年）が力走し、総合成績は10位でした。

なお5区補員として後藤将希さん（蘇陽中2年）もエントリーしていました。上益城郡の代表として出場されたみなさまの今後の活躍を期待します。

山都町の名木【第8回】

たまちてんまんぐう 田町天満宮のケヤキ

〔樹 高〕約20m
〔幹 囲〕約6.4m
〔樹 種〕ニレ科ケヤキ属

馬見原地区、田町天満宮の境内にあるご神木のケヤキです。田町天満宮は、明治末から昭和30年代ごろまで馬見原の賑わいを象徴する施設であった芝居小屋「花園座（はなぞのぞ）」跡地の裏に位置しています。

ケヤキは落葉高木で、一般に寿命が長い樹種とされています。幹はまっすぐでこれから分かれた枝が上向きに伸び、広葉樹のなかでも整った形をしています。このケヤキは、樹齢約400年と推定され、根元部分の土地が切り下げられ狭く小高い丘陵上の地形に立っていますが、今も良好な容姿を残しています。

また、この田町天満宮のケヤキには、中間の枝に同じニレ科の「エノキ」（ニレ科エノキ属）が自生していることが確認されます。なんとこのエノキは、地面ではなくケヤキの枝と幹に根を張っています。エノキの樹齢は、7、80年から100年程度と推定されます。田町天満宮のケヤキは、「ケヤキ」と「エノキ」の2種が共に育っている「相生（あいおい）」の状態を保ち続けている珍しい樹木です。



（平成27年8月10日撮影）

〔参考文献〕 ・九州ハイランド活性化協議会『山都町巨樹調査票』
・1996 平井 信二『木の百科—解説編—』朝倉書店